



その3

〈農林水産部〉

名蔵川農業水利事業完工

当日は、井上沖縄開発庁長官（当時）ほか多数の来賓、地元関係者の出席があり、小山沖縄総合事務局長が次のように式辞を述べました。「本日ここに多数のご来賓及び地元関係者の皆様のご臨席のもとに、国営名蔵川農業水利事業の完工式を挙行する運びとなりました。これは、この上ない喜びであります。かつてこの地域は、かんがい施設が皆無に近い状況であり、畑地



式辞を述べる小山局長

1 名蔵川農業水利事業
完工式及び祝賀会
平成十年十一月二十六日（木）午前十一時よりホテル日航八重山において国営名蔵川農業水利事業の完工式が行なわれました。

主要工事計画

施設	名称 (形式・位置)	諸 元
貯水池	名蔵ダム ゾーン型 フィルダム (石垣市宇登野城)	河 川 名：名蔵川水系ブネラ川 基礎地盤：名蔵礫層、ネブラ粘土層 総貯水量積：3,970 千 ^m ³ 有効貯水量：3,820 千 ^m ³ 流域面積：3.45 ^{km} ² 常時満水位：EL50.0m 設計洪水水位：EL51.2m 利用水深：18.0m 満水面積：0.349 ^{km} ² 堤体／堤体積：1,450 千 ^m ³ 堤 高：38.7m 堤頂長：400m 堤頂幅：8.0m ダム天端標高：EL53.7m 基礎地盤標高：EL15.0 m 洪水吐形式：側溝越流式 計画洪水量：220 ^m ³/s 取水設備形式：斜樋 最大取水量：0.73 ^m ³/s
頭首工	名蔵頭首工 フローティング タイプ (石垣市宇登野城)	河 川 名：名蔵川 流域面積：13.0 ^{km} ² 計画洪水量：260 ^m ³/s 計画高水位：EL3.90m 最大取水量：0.31 ^m ³/s 堰 体 堰長47.2m（全可動） ローラーゲート 1.90m×10.9m×1門、 1.80m×15.72m×2門、
用水機場	嵩田揚水機場 (石垣市宇登野城)	揚水量 0.12 ^m ³/s 実揚程 125m 形式 渦巻 口径 台数 口径 台数 200mm×1 150mm×2
用水機場	名蔵揚水機場 (石垣市宇登野城)	揚水量 0.31 ^m ³/s 実揚程 110m 形式 渦巻 口径 台数 口径 台数 300mm 2 300mm 2
用水路	送水路 幹線水路 計	通水量 0.31 ^m ³/s～0.12 ^m ³/s 0.22 " ～0.09 " 管水路 管径 管長 φ=2.6km φ=12.5km φ=15.1km
配水池	送嵩田配水池 名蔵配水池	配水池容量 3,750 ^m ³ " 7,720 ^m ³ P C タンク
排水路	嵩田排水路 神田原排水路 浦田原排水路 計	最大流量 28.0 ^m ³/s 15.8 " φ=0.7 " 37.5 " φ=0.7 " φ=2.9 "

にあつては毎年のように干ばつ被害を受け、恒久的な用排水対策が望まれていました。国営名蔵川農業水利事業の完工は、宮良川地区と併せ今後の八重山地域の農業発展に大きく貢献するものと確信しております。地元の皆様方におかれましては、本事業により創設された諸施設を十分に活用され生産性の高い農業経営の実現と活力ある農村社会の建設に励まされることを期待申し上げます。次第であります。終わりに、本事業の推進に一方ならぬ御支援を賜りました沖縄県、石垣市及び関係者の皆様方には心から感謝を申し上げます。」

午後からは、石垣市と名蔵川土地改良区共催の祝賀会が開催されました。祝賀会では、大嶺名蔵川土地改良区理事長（石垣市長）の挨拶、祝賀辞、鏡開きが行なわれた後、祝

2 事業概要
本事業は、名蔵川支流ブネラ川に有効貯水量三、八二〇千^m³の名蔵ダムを新設し水源を確保するほか、ダム直下に嵩田揚水機場を設け、嵩田配水池にポンプアップし、嵩田幹線用水路から用水供給を行ないます。他方、ダム下流の名蔵川に名蔵頭首工と名蔵揚水機場を設け、名蔵配水池にポンプアップした後、名蔵一、二号幹線用水路から用水を供給します。また、嵩田排水路、神田原排水路、浦田排水路を設けて低湿地の排水を行い併せて関連事業によりほ場整備等を実施し、農業の近代化と農業経営の安定向上を図ります。

Dam

3 事業経緯

名蔵川農業水利事業は、石垣島の南西部に広がる名蔵川流域の低平地と丘陵地帯で、主としてさとうきび、パインアップル、水稲、牧草等が栽培されている県内でも有数の農業環境を有しています。

しかし、本地域は年間降雨量が二、〇〇mmを上回るものの降雨のほとんどが梅雨期と台風期に集中し、その上流域が小さく河川も短いため、降雨の大部分は未利用のまま海へ流れています。このため、毎年のごとく干ばつの被害を受け、特に昭和四六年には連続干天日数一九一日という大干ばつに見舞われ地域農業は壊滅的な打撃を受け、地元ではダムの築造、用排水路の整備等恒久的な農業用水対策が切望されていました。

同年七月に農地計画部技術課長を団長とする石垣島農業開発調査団が来島し、宮良川、名蔵川流域かんがい計画の概要がまとめられ、沖縄初の国営かんがい排水事業として昭和五〇年に宮良川、昭和五七年に名蔵川農業水利事業が着工しました。

●昭和四六年三～九月
石垣島大干ばつ（連続干天日数一九一日）

●昭和四六年七～八月

石垣島農業開発調査団来島

●昭和四七年五月

沖縄開発庁沖縄総合事務局石垣農業開発調査事務所設立

●昭和五〇年四月

国営名蔵川地区の地区調査開始

●昭和五五年四月

全体実施設計開始

●昭和五七年九月

事業施行申請

●昭和五八年六月

事業計画決定

●昭和五八年十一月

名蔵ダム付替道路工事着手

●昭和六一年九月

名蔵頭首工工事着手

●昭和六二年七月

名蔵幹線用水路工事着手

●平成四年六月

名蔵ダム盛立開始

●平成八年六月

名蔵ダム盛立完了

●平成十年十一月

名蔵川農業水利事業完工式

4 今後の取組

平成十年度で国営事業による基幹的な事業は完了しますが、名蔵川地区の関連事業の進捗は、

(一) ほ場整備四二％

(二) 畑地かんがい二五％

であり、国営事業により水は確保しましたが、末端の農地へ水が届いていない状況にあります。このため、関係機関（国、県、市等）が一体となって早期効果発現のために各種関連事業間の跛行が生じないように重点的な事業実施が必要です。

石垣島での国営かんがい排水事業の概要

